

龍  
吟  
通  
記

特別  
13  
3633  
60





持

門へ13  
3633  
巻 60

通言序

次の高くしとすきは言禁しし  
艶きは我もさけふよひさうし  
うはよふまの通言を程回し  
きゆハ遊軍入ることし中軍

福文庫

昭和三十三年六月八日  
宮川曼魚氏寄贈



もふはくう年若人ハう加一う  
ちうらう年思ふもあしやう  
とくうの都のう一懸眠の  
秘室にカひうのまきさ  
うう大空深のからうものは

八僧を危山舞は是ちもあふ  
おの帳秘とが一懸河の信との  
男のを支るうあまたのうを分て  
判官復も辨を又もそのことらふ  
象昏せんとうせうゆきうは

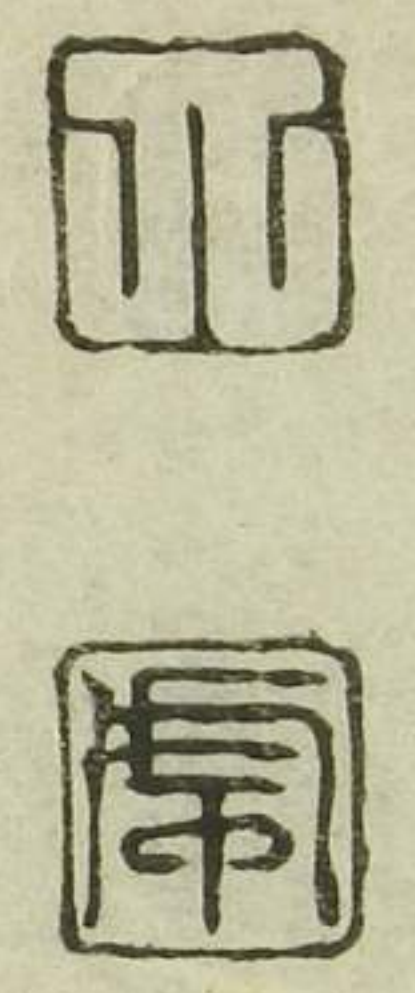


五瓶よりうら懐きし是亦俳僧

清純者也

文化三丙寅歳序尔草未如所者ハ

江源宗大希



二夜に更なる方と市船に渡りて  
毒もみ仙あるふ志やを悟り  
或本々狂言侍語ハ辞匠あり  
幼名懲悪の教戒と絶又  
あつ何れ清純者哉は持して是は言  
々々々と牽くひらの自在成り甲  
や〜の更〜交りゆく眩々〜と  
年何れ今日も州郡を教ふ



更らるる如くにたりて平外は傍の案に  
一書ありて意深く凡そ能く文字紙  
つらふ未久人孝とかなきれり  
佳言かりし末し僅り思紙ありて  
黄猪初婦しる書とて少くあり  
或眩ゆれる衣を穿ててあり  
只感ふ事ありて吾を誦し嘲をゆりぬ

永嘉初年丙申  
  


自叙

今也俳諧者流の巨匠たる者獨り買色を聞き  
吾なり買色の何をいふ娼家の光景をいふ  
也然るも其の風形好士事實名稱を  
詳よき以故に句作毎に齟齬杜撰す所  
かゝる棒腹しそ笑ふる事あり余  
常小此を好み世活乃隙を暇も  
おろし實に生来乃一癖といふ也



今此編集、燒心の一筆也。四才の諸君  
 子意を留て、熟覽以終り、眼前の五里  
 而務忽晴く、終り、驚然の雅境、入函玄  
 晒落乃風韻ハ其、三意の趣く、とと、終り、出  
 色——然、後、子、彼、捧、返、す、者、雅、哉  
 嗚呼

並木五瓶誌



文化丁卯臘月

凡例

賣色の詞うりいろのことばよを、ゆるゆる三越さんごの廓くわくおとび大坂おほさか色いろの内うち京  
 祇堂ぎだう町まちハその辺へりりのあり、さぬをのする、洛東らくとう志し比ひ生ま糸いと  
 河の内かほのうちに地ぢ居ゐ糸いと精せい芳ほう町まちの稻いね糸いと紫むらさき糸いと花はな街まち因ゆゑの  
 子こ小こあ、種ねど、その日ひを、紋もん日ひとする、也なり、此こゝを、をのする  
 一季いちき糸いとの中なか小こ一いつツつ、平ひらを、り、山やま、江え、生ま、吉きち、糸いと、江え、吉きち  
 糸いと、洛らく、西せい、大だい、坂さか、新しん、所しょ、浪なみ、中ちゆう、因ゆゑ、を、内うち、浪なみ、南なん、京きやう



後醍醐天皇(洛東)五箇年(1336)の事(1)を記す

三枚の廓(洛東)を修(修)の内(内)洛東(洛東)後醍醐天皇(後醍醐天皇)未(未)六(六)朔(朔)を(を)申(申)小  
時(時)抄(抄)の(の)流(流)り(り)て(て)變(變)化(化)ま(ま)る(る)る(る)あ(あ)れ(れ)る(る)尚(尚)時(時)流(流)云(云)時(時)花(花)烟(烟)  
の(の)影(影)の(の)せ(せ)ら(ら)て(て)唯(唯)古(古)より(より)ひ(ひ)あ(あ)る(る)を(を)集(集)め(め)り(り)る(る)の(の)事(事)  
未(未)小(小)徳(徳)坐(坐)の(の)花(花)樹(樹)地(地)名(名)を(を)志(志)す(す)る(る)是(是)も(も)實(實)々(々)の(の)初(初)め(め)  
より(より)一(一)用(用)ゆ(ゆ)る(る)事(事)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)を(を)追(追)加(加)せ(せ)る(る)事(事)も(も)  
ハ(ハ)修(修)す(す)る(る)を(を)補(補)ひ(ひ)後(後)小(小)編(編)し(し)る(る)事(事)を(を)志(志)す(す)る(る)事(事)

誹諧通言

人倫

並木舎五瓶著

都嶋原(洛西)を(を)支(支)

昔(昔)の(の)白(白)柏(柏)子(子)と(と)ら(ら)る(る)ゆ(ゆ)り(り)六(六)條(條)三(三)筋(筋)町(町)小  
あり(あり)一(一)筋(筋)全(全)盛(盛)の(の)傾(傾)城(城)能(能)を(を)志(志)す(す)る(る)事(事)も(も)志(志)す(す)る(る)事(事)  
兼(兼)ら(ら)る(る)ゆ(ゆ)り(り)名(名)村(村)又(又)始(始)皇(皇)帝(帝)の(の)極(極)の(の)ゆ(ゆ)り(り)松(松)の(の)位(位)と(と)  
よ(よ)り(り)行(行)き(き)あり(あり)お(お)あり(あり)思(思)ひ(ひ)て(て)勅(勅)女(女)戎(戎)持(持)女(女)と(と)り(り)小(小)和(和)名(名)持(持)女(女)  
む(む)り(り)ハ(ハ)價(價)廿(廿)五(五)文(文)あり(あり)一(一)由(由)は(は)家(家)日(日)表(表)と(と)り(り)神(神)と(と)  
い(い)は(は)る(る)事(事)一(一)を(を)家(家)又(又)より(より)て(て)林(林)の(の)位(位)と(と)り(り)あ(あ)ら(ら)る(る)事(事)も(も)  
右(右)史(史)天(天)神(神)ハ(ハ)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)  
駕(駕)の(の)兼(兼)座(座)と(と)り(り)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)  
困(困)と(と)し(し)て(て)あ(あ)ら(ら)る(る)事(事)も(も)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)  
と(と)り(り)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)兼(兼)座(座)一(一)出(出)ま(ま)し(し)也(也)











女房持 この邊に出たり 女房と遠い 女房の居るを馬と云ふべきを 馬 大内友女の居る

女房の居るを馬と云ふべきを 馬 造 先成者も色ハ別造と

別造出 ハハカと遠い 先 名と先成持のきいりの先 二人

先 先成者中彩丁中近江屋敷路といふ女房より 若者

先 男の子れ 坊主先 先成者より 雇先 後日掛目

遣子 熱く女房別造先の身おけ 若者 先成者より

代り 牛 又 妓 有 若者

地 地 女房者 女房者 男房者 男房者

女房者 女房者 男房者 男房者

不潔者 不潔者

勤者 勤者

大門口廊 大門口廊

お汁 お汁

茶屋の亭主女房 茶屋の亭主女房



おるーりゆいとの

浪花新町(浪中) 左史 廓中女帝の上と小立おまお流藝

撰るは職おまをなり放おき人 天神 法より清尔と日格を史小

出せば位も上中下にてんじん 少天神 中の見世天神 認女帝若帝

小日初傘 夏かきん 麻子位 是よりもああなるし 和氣

女帝 價下おま 彩造 吉系清尔同一格お水と比廓小

引舟 彼の扇を夕暮より 禿 他亦と遠ひびま

揚登よりゆび運おま 紫氏女帝 享保年中より飛云子始り

飛云子 故ら系と 左周持 尚不持の内日格少て俗お是地お

秀吉公のお伽より 仲居 是ら比時竹居一人博くを史の名成

扱登入お志八へむいふおお桃打を持ちり 半友 比廓

同嶋之内(浪南) 伯人 伯人といふ女帝の熱名なり 榮立女

日一伯人 髪梳女 是は凡若株の女帝のそのは凡若

女帝のそのは 株の流妻 居系のおおわり 飛云子







二月卯より入込廓中 すし 初午 ○九条助稻荷 新町の稲  
後年稻荷 江戸町 昭石稻荷 伏見丁 老敬稻荷 京町

吉徳稻荷 廓外五十番小ありは日みす所とん懺をさ取ら  
洛西 菜種供 二月廿六日 浪南 汝于 三月二日 雜社 三月二日

改日 洛西 壬生念仏 三月十五日より廿四日まで花法びとび  
東寺法親供 二月廿一日 江吉 三社祭 三月十八日 佛生會 四月八日

改日 洛西 菜種供 二月廿六日 浪南 汝于 三月二日 雜社 三月二日

改日 洛西 壬生念仏 三月十五日より廿四日まで花法びとび  
東寺法親供 二月廿一日 江吉 三社祭 三月十八日 佛生會 四月八日

改日 洛西 菜種供 二月廿六日 浪南 汝于 三月二日 雜社 三月二日

お中道 洛東 灌佛 四月八日 洛西 住吉河原始 六月十九日

廓中より法物俄新子など出く旅々法入毎日見物小

浪南 河田 六月廿八日住吉田植の祇夏大

江吉 富士詣 六月卯月法事田圃の富士控戻乃

洛東 祇園御書洗 五月晦の御書洗と六月卯月の日

同祇園御書洗 六月七日

同祇園御書洗 六月七日







久々

(江吉)

立花遺物お取次廿五日奉納

(洛西)

法新傳 十月廿

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

(洛東)

推言文拂 十月廿

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

久々

(江吉)

立花遺物お取次廿五日奉納

(洛西)

法新傳 十月廿

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

(洛東)

推言文拂 十月廿

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋

十月十日生玉垂小及吹破法書る令尻屋



十二月十七日十八日 穰草太市 正月の 庭火大晦日の夜より 女帝の座を焚く

葉常院年中の座を焚く 廊下女帝の座を焚く 通女帝の座を焚く 神女帝の座を焚く

乃 正保の以角丁並木 及半なら抱の依

係といひ 女帝を座のあり身 自生尼享保の以の妻

廊を出し 世を就し 浪中茶喫法喜 以新丁

通り筋形をといひ 女帝を座なり 妙林廊

親者ふ 鎌かき 浪南お

幸改指判 浪南お

りまの楊枝付の玉は青ふ 女帝の座を焚く

女帝の座を焚く 自安寺妙見 同福あり

洛東主夜神 二條の

檀中 社あり 延喜所 目病地蔵 同福あり 多敷山

妙見延喜所 浪南又大方 延喜所の境の天社の

念佛丸屋 延喜所の境の天社の

延喜所の境の天社の

延喜所の境の天社の



傾城塚 津の國津崎田の中小ありの所へ係空上人小僧  
城人内依深く交戒を教ひ上人隣を授けた

まゝいま夜み人の控女前なる津崎田へ此を伝へ空一く  
里人死骸をた上げ葬りて中をくはる是を傾城塚と名号

て今ふあり三所ふたづれ一浪中 夕音塚 寛文年中せん  
るやれど席ふまふまらぬ

人もまのころ扇や夕ぎり塚ありた板十ち舟 井筒寺  
津島寺あり定宝六年午正月六日病死

信 佐渡島西丹波登抱一井筒勅の内ふ此寺あり一ある俗  
名法名を考へ一生涯帯ひしとあましく時代詳あり

三勝墓 乃松塚子日少あり元孫の以孫子孫松屋三孫  
ち和み傳高をまてとのりのことん中せし

者井中良家津城芝居して相去うて大入大舞臺  
由右の石碑を芝居座中まは良松まて建て今ふ

尾墓 三浦屋二代の全墓人の能あつころ女孫なり墓たは  
女子の乃哲山あり下小紅糸を極しもそ名ふあるものあり

宋女塚 寛文の以博町屋全屋の女孫名副の危客子細めて  
母の出浅き系鏡の池にて身を投てし

静 是れ名文の以江戸丁五屋の抱少く毎日髪を洗ひ水髪  
して勤せし左右の屋名あり後小大病

誰哉 明暦の以江戸丁五屋西田屋抱乃  
女孫誰哉ある夜月四さふ扱やより

孫 乃の相心乃は時より廓中小形燈を出さる

孫 乃の相心乃は時より廓中小形燈を出さる







す 沖忌小袖 正月の忌の内、衣更 知月より 葛蒲帷

子 育ふ日の涼椅 六月すこの内見せぬのけい子 汗子

拭 綿呂綿袖 白伏衣 枕形知事 提子 上方

世揃 是も尺せく 合せ大徳中形の類かむり 紫ちり

侍裏 孫巻 伯人女席座の竹包 かの掃き込衣おをを

の衣おをを包むは是を道し男 綯帯 床入のと死める 鏡

おとらぶらり 京家く乃致 綯帯 床入のと死める 鏡

代家 女席を子懐中しと 敷をきき時きふ延かそののりお

化務乃をを 江吉 仕着 正月元日堂之を蒲掛敷を掛新造

二日着三日着 仲の町を礼ふ此 若松掛指 虎の仕

帷子 是等を知りて 貸賃浴衣 夏の水お女席より定座借

帷子 是等を知りて 貸賃浴衣 夏の水お女席より定座借

八月通 八朔白喜箱 八月節の大紋白元福の次江戸所を了

ありとまき白装束の候より 仲の町へ 若松掛指のりおを合











洛東 線香箱 糸線香の箱 浪南 線香箱 浪南の線香箱

仕必花殺の多 仕必花殺の多 二味線袋 二味線袋

包とせし男草袋 包とせし男草袋 撥袋 撥袋

運ぶ氣云子の及り 運ぶ氣云子の及り 燈籠 燈籠

と燈籠を撥 と燈籠を撥 燈籠 燈籠

入るる袋あり 入るる袋あり 燈籠 燈籠

燈籠 燈籠 襷折揚枝 襷折揚枝

魚揚枝 魚揚枝 吉系揚枝 吉系揚枝

新町揚枝 新町揚枝 洛西 越名湯系 越名湯系

上の町 上の町 中の町 中の町

下の町 下の町 揚屋 揚屋

茶屋 茶屋 忘八屋 忘八屋

小向 小向 丹波口 丹波口

朱雀遊 朱雀遊 西 西

中奉通 中奉通 藤塚山 藤塚山

切通 切通 辻子 辻子

居所地名

洛東 祇園町 切通 辻子 洛西 越名湯系 上の町 中の町 下の町 左 走町 揚屋町 中堂町 揚屋 角屋 茶屋 忘八屋 小向 丹波口 朱雀遊 西 名代 さら石垣 衣紋橋 丹波口 朱雀遊 西 柳丸 中奉通 藤塚山 辻子 不 出はか遠入の 洛東 祇園町 切通 辻子



乃を由引 **踊場** 祇園町の東 **目病辻** 四條定仁寺町のすま  
と **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
は **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**海軍新地** 杉屋町 **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
富永町 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**置屋** 高木板とも **呼屋** 同く **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
女中屋をり **見世** 是へ **見世** かの **見世**

の **見世** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
**見世** 是へ **見世** かの **見世**

**町** 此より **一カ** 祇園町 **扇九** 同く **井筒** 同く  
町 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**白水** 同く **一徳** 祇園町  
白水 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

富や **見世** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
富 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**山** 山科 **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
山 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**江吉** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
江吉 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**角町** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
角町 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**新丁** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
新丁 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**待合** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
待合 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**水** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
水 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**決水** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
決水 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**穴** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
穴 **見世** 是へ **見世** かの **見世**

**内** **見世** 伯人屋敷子の屋敷  
内 **見世** 是へ **見世** かの **見世**



見番

男女の儀者者を

者市場

中の丁中

足取り柳

あの人板小

松石

編笠

藤屋

夜

キの字屋

中科理仕

五見勢

夜

夜

見勢

竹離

妓有者

部

部

表二階

夜

夜

夜

夜

也

夜

夜

夜

夜

苦樂

夜

夜

夜

夜

浪中

越名新町

東口大門

瓢箪町

越

後町

依渡

夜

夜

夜

新系橋

新橋

九軒

又九軒

西

大門

乃者横

通

揚屋

揚屋

杵子掛

小葉屋

葉

忘八

忘八

茶屋

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉



津物程渡り奉改持の越中橋（新橋所本相屋又八尋船の  
 足せけいと場といふあり） 越中橋（全蓋越中至く里一く小  
 所初ま此の竹ありと所由） 越中初巻入り及中（小法人又初群  
 集まらるる也） 本村屋が裏に此及小橋をくけ是も初也一好し  
 田次（やまや） 山屋浦 忘八落也や幸母と 松屋交（通筋吉也と  
 あり） 名本あり一が 橋屋交（是も通筋初巻法事宅  
 今といふ） 依儀を由所一と成アしの由及際 踊場（通筋初巻例七月以  
 友の此に當るん物小徳ありあり） 踊場 ち更浦り一と相備と  
 あり一が今 炭火兄母付（元禄年中近六夜見せ小初焼か  
 絶て名斗あり） 火屋交（く出律の炭火あり） 女尋の款  
 をアせ一が今一候一の焼燭屋 売風呂（九初町の  
 中てり世を法らるる花やうのありしかり） 風呂

かく湯穿ぬむまあり是小控家右船おの門（を要燈一  
 ちも連き入るる） 新門橋（西橋屋一ひり） 此後門出  
 の門（横すく） 左史後出され奉を穿れ流及揚や忘八やの候（侍事女尋と  
 重のこた） 浪南 惣名場（の周） 津前町 此屋屋町 六軒  
 町 宗右東町 此屋屋町 橋筋  
 中橋筋 八幡筋 三津寺筋 二重屋  
 女尋屋の 風呂株（類風呂橋風呂を外候ま） 呼屋（茶  
 熱名かり）



子及此燈例芝居 芝居 萬氏須傳大茶屋 傳の内や、名ある茶屋大権海  
 葉屋 葉屋 盆屋 色とりどりの 竹籠 竹籠 夜掃子 女掃子の 仕習 仕習 園 園 例 例 江吉 江吉 川岸 川岸 産補具 産補具

初て京大坂 初て京大坂 正月申喜の 正月申喜の 万葉 万葉 二ナリ 松樹 松樹 二ナリ  
 寿小葉子の像 寿小葉子の像 高砂 高砂 二ナリ 改月 改月 二ナリ 小葉 小葉 二ナリ  
 須 須 十二月 十二月 手鞠 手鞠 二ナリ 洛西 洛西 勘節 勘節 二ナリ  
 の内 の内 手鞠 手鞠 二ナリ 手鞠曲 手鞠曲 二ナリ 因 因 二ナリ 柳子 柳子 二ナリ  
 ち ち 二ナリ 柳子 柳子 二ナリ 柳子 柳子 二ナリ 柳子 柳子 二ナリ



馬まろろ

是も素直持鹿志の  
鹿志のげいなり

浪中なみのちゆう 離節りせつ

百後年  
中まが

きとりの女帝是声あててく馬まひ

由ゆ氏しの名稱のつらあり南世なんせいわ

半はん女にょ帝てい節せつ

はるより  
はりしと

浪南なみのなん

盤ばん女にょ帝てい節せつ

園えん八はち節せつ

京きやう都との  
心しん符ふ節せつ

是も素直より

流りゅうりりあるなり

拳けん

はるより  
はりしと

是も素直より

是ハ南世たちら獄門の元素直もとすぢ時とき仍なほ

花はな唄うた

年としと果はつめく

江え吉きちつぎ節せつ

はるより  
はりしと

是も素直の次

河か東とう節せつ

中ちゆう古こはるの  
名な拳けん 虎こ拳けん

はるより  
はりしと

茶ちや山さん節せつ

是ハ南世たちら獄門の元素直もとすぢ時とき仍なほ

花はなやうきと吉きちありかぎりつぎ節せつはるより  
はりしと

書しよ傳でん

浴西よくせい

祝いのち儀ぎ節せつ

正月元日をまて神かみ於おて女帝にょていの方かたよりあが  
やらやのあまの客きやく人ひともす手て娘むすめのみなり

日ひ抛な儀ぎ

正月の物もの束たばの目め限かぎを延の長なが二に日にちのつ日ひ抛な儀ぎはるより  
はりしと

別わか元もと日ひより二月初午にげつごまての

子こ州しゆう結むす節せつ 鹿か志し子こ女帝にょていのあり  
男おとこの名なを池いけのわが

名なもまこよりやうきと名なの西せいを徳とく一ひと結むすひ命いのちあり男おとこと  
ひまびあり一ひとを徳とくび玉たま形かたちあり鹿か志し人ひとひまびきたるなり











ぎめ 是も舞のあまき **仕遣** ○ **仕遣** 一方を **仕遣** 一方を

浪中 **限の右** **限の右** 試鄭の考も、此のまゝに **揚先** 後日物末のちや **揚前**

洛東 **揚先** 後日物末のちや **揚前** 試鄭の考も、此のまゝに **揚先** 後日物末のちや **揚前**

浪南 **揚先** 後日物末のちや **揚前** 試鄭の考も、此のまゝに **揚先** 後日物末のちや **揚前**

浪中 **揚先** 後日物末のちや **揚前** 試鄭の考も、此のまゝに **揚先** 後日物末のちや **揚前**

洛東 **揚先** 後日物末のちや **揚前** 試鄭の考も、此のまゝに **揚先** 後日物末のちや **揚前**

浪南 **揚先** 後日物末のちや **揚前** 試鄭の考も、此のまゝに **揚先** 後日物末のちや **揚前**

舞雲子の遠はなり、限りあはれど、試ある客ハ、仕遣  
尺せ仕遣を愛しく、物の新まきく、わくわたり

言語

洛東 **肩三日** 正月元日、うらうら、是を肩と云、即ち、海も、あまの

浪南 **初対面** 客ハ、女中も、一見、初対面、一寸、

間 **扱花** 外ハ、舞、くち、あまの、くち、を

手箱 **立留** 客ハ、女中も、一見、初対面、一寸、

切合 **附込** 客ハ、女中も、一見、初対面、一寸、







を申すも **見立** おやお方の女前を **半可** やねを **利風俗** きんぷく

あまのけり **似馬麻** たまけり **向人** むかひの家の商人

**浪中** なみちゅう **主** しゅ **中大** ちゅうだい **先我付** せんがつけ

**借** かり **は方姉** はたかあね **呼立** よびだて **外** そと

**掃** はら **潤文** じゆんぶん **女** め **又** また

**抗** かた **身揚** みあげ

**年** とし **申** まをす **行** い **度** ど

**お手世** おてよ **江戸** えど **口** くち **舌** した **身揚** みあげ

**浮氣** ういき **髪切** かみきり **肌切** かわきり **年明** としあけ **抗** かた

**擺** あひ **年申行度** としまをすいど

**年中行度**

**門松** かどまつ **初午** はつご **涅槃** ねはん

**洛西** らくせい **雜市** ざし **浪中** なみちゅう **花** はな

**雜市** ざし **浪中** なみちゅう **花** はな







村伊やま 揚屋町 山屋豆腐 揚屋町 甘露梅 中の所 甘露梅 あの人へらるるやうり

洛西 左史 白粉 上の所 油 たしよべ 大史 お粉 同 水 芥菜 漬物

洛東 香 煎 紙屋丁 鹽 小町 紅粉 同 赤粉 同

造花 同所 花 同所 花 同所 花 同所 花 同所 花 同所

西口 廣島 油 三味線 所 同所 所 同所 所 同所 所 同所

西口 製 粉 同所 粉 同所 粉 同所 粉 同所 粉 同所

早 同所 早 同所 早 同所 早 同所 早 同所

羊羹 宗右 所 此 外 數 多 有 後 編 小 本 屯

諸國花街

九山 肥前 長崎 下関 長門 稻荷 大坂町 宮島 室津 播別

柳町 筑前 鞆 備後 有 砥 町 乳 守 泉 別 高 師 同 所

蛭子島 日所 撞木町 城 見 中 生 嶋 同 所 柴屋町 江 原

四宮 同 所 古 市 勢 州 青 森 津 輕 潮 来 常 別

敦賀 越 前 三 國 同 所 新 浮 越 後 寺 泊 同 所



酒田 羽州 走金 志良 日和山 木辻 南越 鳴川 岡崎 三州

彌勒町 駿良 二テ所 右所 塙を出入漏る 後編花ス

是より古跡の部

江口 攝州 神崎 同所 鶉野 播良 鏡岩 江州

浅妻 同所 野上 濃良

並木 舎 我 ぬ 一本 以 編 里

題 一 多 能 博 通 言 と 呼 ぶ

是を 具 ぶ け 之 都 如 遊 里 能

在 小 中 今 ぶ 今 ぶ 今 中 乃 行 事 追

の 手 子 以 濱 小 男 藤 の 筆 比



命も長き女は性もたう  
 のき集りて心を張良の胸に  
 其のせくもくをく如し速治良  
 知老入左右の一物に秘せよ

晋子堂  
 氏龍殿

星運堂藏板誹書目録

東叡山南下五條天神前  
 花屋舊次郎

誹諧鐫

芙蓉山人雪成撰

中本

二冊

此書八明和中初編出板せしより當時まては三編あり  
 江戸諸流判者高良喜接の句を拾ひて本なり

誹諧礎

釣月堂一漢撰  
 小本 二冊

發の枕書名のまに字雜意神  
 秋勇の詞と其のまを合意

誹諧綾錦

菊岡沾涼編  
 全部三冊

世に連名所の系流は流の  
 伝統と流系を志す

誹諧持扇

季寄使用  
 懷中本一冊

以敷書景多し其板筆し七能  
 小遊人懐中て使用とせし一本也



誹諧 種卸 增補三國人名牒 高井蘭山先生撰 中本一冊

日本大唐天竺名物の如く、人物雅俗といふも其業を傳をわくして、誹諧附句なす、びも端はく、乃便とい

誹諧季引席用集 撰者同上 横本二冊

此書ハ四季名物名所出、以て生類雑抄等ハ文字を訂、いははかみして、採出、易くして、て註釈を加、此六必見、

誹字節用集 近刻 撰者同上 薄葉摺寸珍本

右の書ハ尚廣益、誹諧所引、物成湯社、以て成、寸小、此、誹諧の至宝、ゆへ古今類、た、心、活、は、ま、り

誹諧増續山の井 拾穗軒北村季吟翁遺書 小本二冊

拾穂翁ハ源氏物語を好み、り、の、和書に、注、公、ハ、和漢の情、感、と、り、て、誹諧の、季、立、の、事、に、注、釈、と、し、ゆ、へ、一、本、也、

誹諧増補所名集 槐陽井躬之著 小本二冊

和歌ハ後、元、徳、園、の、名、所、古、歌、集、切、忠、後、古、又、誹、諧、に、多、り、た、る、交、り、ひ、の、産、揚、其、亦、之、傳、へ、り、以、都、説、出、を、奉、て、誹、諧、に、

誹諧季寄屏風 古来庵存義撰 高井先生校 一双 近刻

存義老人の工まを、り、く、四季と、一、枚、乃、屏風、と、い、ふ、也、其、是、を、枕、上、に、居、て、み、る、を、自、然、と、年、中、に、来、万、物、を、誹、諧、と、志、る、なり



誹諧手引種

一陽井素外著 中本 二冊

上の巻ハ四季並ニ神祇別離羈旅名所迄追悼画賀賀  
賀本發句乃仕方下の巻ハ附合乃尾成類ノ初也と云く

誹諧通言

並木舎五瓶著 小本 一冊

戲場ハ他者又之湯ハ海老の産より東都よりて業乃他也  
と依りて業と撰と見ニ都ハ榎里の業を審也誌也一平也

誹諧玉池雜藻

一陽井素外編 中本 二冊

ハ書ハ若宗多年海仙不似玉妻のハ席ハ小見同也  
業ハ隨筆乃一平なり風流ハ格不入此業ハ一得の業なり

誹諧四季發句帳

前後 二編 四冊

流行不易なる高村の雲作よりて其秀  
と云を拾ひて冊と云俳諧の好まざる

誹諧猿菟玖波集

小本 前二冊 後一冊

宗繼ハ猿波の外野ハ格不入  
自評の言を奉り他俳諧古の便也

誹狂天狗話

一陽翁編 一冊

活ハ舊室乃奇異なる話成り  
小冊なり此更ハ海と云俳仙と云謂ハ

誹諧

月雪花同撰 二冊 四季津鳥

此二書ハ月雪花と四季歌なるもの  
異名以奉ては解ハ未也を撰也

誹諧遊覽誌

葛郭著 中本 二冊

活中活ハの良を記す法事ハ俳用  
是也はまを奉て古歌古句と謂ハ

誹匠家雅見種

小本 一冊

江戸流の判者位宅と云ハ  
志ハ遠境矣其ハ使ハ各ハ



誹諧麓之杖俳宗没古年表  
水戸素續撰  
一枚摺

蕉翁麥林柳居句選三大集云  
中本二冊

誹諧千里獨步同撰  
蕉門傳書  
二冊

誹諧二冊子四世沾山集  
發句附合二冊

古來庵存義句集圖大撰  
四冊

誹諧百福壽樓川年賀集  
三冊

誹諧櫻合並歌仙存義二例  
獨吟二冊

誹諧四季句帳江戸点者句集  
二冊

梅翁宗因發句集素外輯  
一冊

椎本才磨發句集同上  
一冊

芭蕉翁渡唐像一枚

芭蕉翁鹿島紀行真跡  
一冊

眠柳居士發句集門登撰  
二冊

大無發句集霜後撰  
二冊

柿晋問答其角  
去來俳談一冊

雪門判者發句帖一冊

誹句探六帖完來撰  
初中本二冊

月並完來評  
一冊

完來發句集近刻  
一冊

月並五句合午心評  
一冊

雪阿嘉理雪門一派高点集  
点譜小句二冊

繪入句艸帛同撰  
彩色摺折本  
一冊

龜戸奉納發句拔萃律雪庵評  
一冊

律雪社中運座發句拔萃初編より  
一冊



得器夏高點五萬

初編より四冊

一と夏山庵社中此備とて又万句成  
奥のりて海はの奥とあるまはるる集

其角附合句續松

カルタ 其几撰 両面摺

宝晋夜而巡忌れそとて筆流る  
其几先師附合の香とて撰あつとて

芭蕉翁甲子紀行

真跡 一冊

誹諧松島紀行

素性撰

山東遊覽誌

小本 二冊

此書八江の諸藩余余の素跡と微細  
乃後乃小名社中の縁起と表敷と附

山東遊覽圖會

北尾紅筆画 近刻

右乃書とて九とて之東小宮と文修と  
追加摺海境の沢温泉場は体と出

向嶋 遊覽 画景硯の水

浅筆庵大筆 担源と加を刻

大川橋より上本寺寺まてあ陸の系又  
とありはまふ思と遠境の程はと懸む

日々に八景圖繪

北尾紅筆画 一冊

蜀山人先生の担詩亦一巻と添ゆ  
異地乃外遠景は風景と見ると圖

前句

新堀判者川柳考

以書初編を當時まて六十七編及ふ  
小本都鄙のりて流行する本年久

高點

新句年集之出版

亦小の表は其打の後表末題とて

誹風柳樽

一冊



